

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370700288		
法人名	社会福祉法人 門前保育会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	〒028-0023 岩手県久慈市新中の橋4-12-2 (電話)0194-61-3917		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年4月8日

## 【情報提供票より】(平成20年12月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代その他実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

### (4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちだ医院・岩本歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の周辺には市営体育館や河川公園施設、商店街、一般住宅があり、日常的に散歩をしたり、近くの商店やスーパー等で買物を楽しんでいる。さらには、同法人が運営する保育園の園児との相互交流が頻繁に行われている。利用者は春から秋にかけては野菜作りを楽しみ、収穫した野菜を食材とするだけでなく、干し菜づくりや干し柿づくりに挑戦するなど、励まし合い、喜び合いながら和やかな雰囲気の中で暮らしている。職員は、利用者の健康状態から食事・活動・服薬・衛生管理に至るまで詳細に項目を設定するとともに、対応者が分かるような独自のチェック表を考案して日常介護に活かしており、利用者の安心・安全な生活を支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回まで評価で話題となった「運営推進会議」が開催されたことの意義は大きく、地域との交流に向けた多様な取り組みが望まれる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価記録を基に、職場研修として話し合い、評価の意義や改善点等について振り返る機会となったとしている。今回の自己評価は、全職員で項目分担しながら、項目内容や表記について検討を重ねながら、最終的に管理者がまとめている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的な開催までには至っていないが、直近の会議では、活動報告のほか、利用者や家族、包括センター、地域住民代表による評価や助言・要望等について意見交換を行っている。今後さらに、地域住民とのふれあう機会づくりや、ホームあるいは認知症への理解が得られるような推進に努めたいとしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、広報誌「けやぐ」を発行し、月行事や家族への連絡のほか、誕生会や行事などは写真掲載で工夫されている。また利用明細報告の送付と一緒に利用者の健康面や通院状況、生活状況等を報告して、容態の変化などは随時連絡を取り合っている。金銭の預かりについては、家族の来訪時に確認を得ている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	地域自治会への加入を検討しているが、加入までには到っていない。隣接の保育園の運動会や地域行事に参加し、保護者や参加住民と交流しているほか、新たな企画として、他のグループホームとの合同敬老会を婦人会や推進委員、地域住民の協力で実施するなど、地域交流の幅を広げている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度全職員で「そのひとらしさ」をテーマに見直し、「その人らしさを見つけ出し、明るく、穏やかにつづげる空間の中で、安全と尊厳、且つ安定した日常生活を営めるよう、個々の希望に添った支援を提供します」と事業所独自の理念を設定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングや月例職員会議等で、理念のキーワードである「その人らしさ」の発見あるいは発揮することを軸にした話し合いを持ち、一人ひとりの暮らしの振り返りやステップに向けた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する保育園との交流や地元婦人会の慰問の受け入れのほか、運営推進委員の参加も得て季節的行事にも参加している。また、新たな企画として、他のグループホームと合同敬老会を婦人会や推進委員、地域住民の協力で実施するなど、地域交流を拡げる実践に取り組んでいる。	○	利用者が地域で安心して暮らすことのできるよう支援していくうえで、運営推進委員の力を仰ぎながら、地域自治会への加入、災害に対する地域の協力等その対応策について協議することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、前回の外部評価記録を職場研修として取り上げながら、改善点等をケアの実践につなげている。全職員で項目分担をしながら、計画方法のあり方等について話し合い、最終的には管理者がまとめた。	○	前回の外部評価記録を職場研修として取り組んでおり、今後更なる「改善項目」についての検討と改善を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催までには至っていないが、直近の会議では活動報告等のほか、利用者や家族、包括センター、地域住民代表による評価や助言・要望等について意見交換を行っている。さらに、地域住民とのふれあいや認知症への理解が得られるような話し合いや提案をいただける推進に努め、運営に活かしていきたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の敬老会への出席のほか、包括センターや市担当者へ出向いて、空き部屋の状況に関する把握、制度や運用等に関する相談の機会を持つなど、良好な関係を築きながら、サービスの向上につなげる取り組みに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、広報誌「けやぐ」を発行し、月行事や家族への連絡のほか、誕生会や行事などは写真掲載で工夫されている。また利用明細報告の送付と一緒に利用者の健康面や通院状況、生活状況等を報告して、容態の変化などは随時連絡を取り合っている。金銭の預かりについては、家族の来訪時に確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けているほか、意見箱を設置している。毎月発行の広報に、意見欄を設けて呼び掛けをしているが、更にアンケートなどを試みたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たに職員を採用する際には、ホームの理解や馴染み関係を深めるまで、指導担当と2人で対応することとしており、利用者にダメージを与えないような配慮や体制で臨んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の定例会議時に併せて職場研修を実施しているほか、ケアプラン作成に当たっては、職員全員で利用者の理解に努め、文献などを基にするなどの意見交流が職員のモチベーションを高める機会となっている。また、外部研修へ積極的に参加するように努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループ協会に加入し、ブロックの定例会には参加できないこともあったが、近隣のグループホームとの交流は継続しており、特に、合同敬老会の開催にあたってはホームの積極的な取り組みの姿勢が評価され、婦人ボランティアや住民からの理解と協力につながる機会となったとしている。	○	同業者との交流行事が、地域住民の理解やボランティアの協力などによって展開できた事実を大切にしながら、更に交流の輪を広げる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気や生活の状況を説明、見学等、納得した上でサービス利用に結び付けている。入居に当たっては、使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んでもらうようにお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所が広く、野菜を刻む、皮をむく、包丁を研ぐなど、それぞれの得意分野や分担を能力に応じて、職員と一緒に活動している。時節の郷土料理では利用者が主人公として活躍し、行事等では、郷土の盆踊り「ななとやら」を唄うのが定番となるなど、喜怒哀楽を共にしながら利用者との信頼関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や家族からの希望、日々の言動や気づきなどを通して、本人の意向を把握するように努めている。利用者は、草取りや種まき、掃除、調理、食後の片付け、洗濯たたみなど、それぞれに応じた力を発揮しながら、満足感や思いやりが築かれるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや家族本人の意向、担当職員の意向や提案を踏まえ、計画担当者が介護計画を作成し、利用者家族の確認と共に同意を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じた随時の見直しのほか、チェック表・ケース記録、業務日誌等を基に、3ヵ月ごとのモニタリング・評価を踏まえ、現状に即した見直しとなっている。見直しの経緯や介護計画書などは、面会時に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人運営の保育園と隣接しており、保育園児等と関わりやすい環境にあり、交流も盛んである。近隣のスーパーへの買い物のほか、大野道の駅の見学、山形の手打ちそば体験、理美容、通院など本人や家族の希望に応じて出かけることができる体制をつくり、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医や総合病院と連絡調整を図り、適切な医療を受けられるよう努めている。また利用者の容態急変時など、家族の同伴が難しい場合には、職員が通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の時点で、家族に対して終末期や重度化対応に関する方針を説明しているとともに、職員間で対応方針を共有している。これまで重度化や看取りに対する支援の実際はない。	○	重度化や終末期に対する支援は、日常のケアの延長線上にあると考える。現実に直面する以前から、日頃より医療機関との情報交換等による協力体制を築くとともに、家族の考え方を確認するなど、関係者との間で方針を共有することが大切と考える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導や介助、失禁時の対応等、利用者の羞恥心に配慮し、互に注意し合いながら対応しているほか、一人ひとりの尊厳を守ること等について学習を深めている。ケース記録などは鍵のかかる場所に保管するほか、守秘義務について徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は設定しているが、起床や食事、散歩、入浴など、一人ひとりのペースを見守りながら対応している。また、利用者の意向や役割意識を活かして、買物、野菜作り、調理など職員と一緒にいるなど、安全に配慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所では、野菜を刻む、味噌汁を作る、皿に盛り付けるなど、職員と一緒にいる。また、利用者の好みや食べたいものを聞いて献立を作るとともに、地元の慣わしに応じた郷土料理を取り入れ、昔の思い出や味を楽しみながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて希望の時間帯に入浴ができるように努めている。衣服の脱着が面倒などを理由に入浴を嫌がる利用者には、時間をずらしたり、馴染みの職員が対応するなど、個別的な対応をしながら安全に入浴ができるよう支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	米磨ぎ、野菜刻みや皮むき、盛り付け、掃除などの役割意識を活かした対応のほか、趣味としての裁縫(雑巾縫い)、民謡や盆歌を楽しむなどの支援、散歩や買物、園児との交流、地域行事参加、ドライブなどの気晴らし支援など、変化のある生活が送れるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣商店でのショッピング、園児との交流、花見や観光ドライブなど、利用者の意向や希望を取り入れた外出支援のほか、利用者の畑作経験や関心を活かした野菜づくりなども含め、日常的に外気に触れることができ、または気分転換になる機会づくりを行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時には自室に鍵をかける利用者はいるが、基本的には日中玄関等は施錠しておらず、職員は、一人ひとりの利用者の表情やしぐさ等から、予測される行動の情報を共有しながら注意を払っている。また、利用者が外出する際は職員が同行したり、隣接する保育園の職員と協力して見守ることにより、安全な外出を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的には、隣接の保育園と合同で避難・誘導訓練を行っているが、地域協力の対策を課題としている。今後、運営推進会議の協力を得ながら、地域の協力体制について検討したいとしている。	○	災害については、近隣住民から協力を得られるような体制づくりは欠かせないと思う。運営推進会議を通じた積極的な働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分や食事の摂取量を毎日チェックしているほか、利用者の状況に応じて盛り付けや硬さなどについて気配りをしている。なお、月1回体重測定を実施し、変化に応じた栄養状態の検討資料にするなど、一人ひとりの状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大枠のカラス窓、梁柱をむき出した古民家を感じさせる木造づくりの明るい共用空間であり、廊下に設置されたベンチからは、道行く人や車の往来や園庭で遊ぶ園児らを眺めることが出来るなど、ゆったりくつろげるスペースとなっている。リビングと台所は対面構造で、会話を楽しみながら料理や食事が出来るなど、家庭的な雰囲気を感させる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、小物入れ、座机、炬燵など、思い思いの物品を持ち込みながら、居心地よく過ごせるような居室となっているが、古い物の持ち込みを恥ずかしいと拒む家族に向けて、理解を得るための話し合いを継続していきたいとしている。		